



神社本庁よりの幣帛供進

社報
あそ
みや

平成6年11月1日
第13号
発行所
阿蘇神社社務所
多良見町化屋名862
TEL 0957-43-5235

御鎮座四百六十年式年大祭を終えて

阿蘇神社 宮司 大島 大明

阿蘇神社は天文三年（一五三四年）仲秋、熊本県一の宮に鎮まります。阿蘇神社より御分靈をいたしました。喜々津村の総鎮守の社として創建されました。爾来、喜々津の産土神社として、心の拠り所として廣く崇敬され続け、本年御鎮座四百六十年を迎えるました。

御鎮座四百六十年式年大祭を恙なく奉仕し終えた今、由緒ある神社に宮司で居ることに只々感謝いたしております。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて、向かふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、

明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共榮とを祈ること

顧みますれば、昭和六十三年九月一日附で阿蘇神社櫛宜として着任いたしました。平成元年七月一日附で宮司に就任、以来早いもので六年を経過いたしました。この間神社総代、評議員各位、そして氏子崇敬者の皆様方より多くのご支援ご高配を賜りました。

今後も微力ながら御神徳の発掲のため、祭祀の厳修に努める所存でございます。皆様方の更なるご指導をお願い申し上げます。

御鎮座四百六十年式年大祭

厳粛に斎行される

秋晴れの十月十五日、御鎮座四百六十年式年大祭が、神社本庁より献幣使の参向を賜り氏子多数の参列のもと厳粛に斎行された。

午前十一時、宮司以下祭員、献幣使が衣冠に身を正して参進し祭典が開始された。先ず宮司が御鎮座四百六十年を奉祝しての祝詞を奏上。次いで神社本庁及び長崎県神社庁よりの幣帛料が宮司の手により神前に嚴かに供えられた。引き続き献幣使（藤本勝喜・長崎県神社庁長）が衣冠に身を正して参進し祭典が開始された。先ず宮司が御鎮座四百六十年を奉祝しての祝詞を奏上。次いで神社本庁及び長崎県神社庁よりの幣帛料が宮司の手により神前に嚴かに供えられた。引



宮司以下祭員・献幣使参進



かこい組(株)池田社長へ感謝状贈呈



誠会 持永会長へ感謝状贈呈

社長（社長）が祭詞を奏上し、その後笛太鼓に併せ巫女が舞を奉納、最後に参列者の代表が順次玉串を奉つて拝礼を行った。

祭典終了後、神前に於いて永年顕著なかこい組(株)池田忠憲氏に宮会誠会（会長持永政義氏）、また拝殿用椅子を奉納するなど功績が司より感謝状が贈呈された。

御神酒拝戴の後、社務所で祝賀会（直会）が行われ、先ず本鳴吉



宮司祝詞奏上

松総代会長が挨拶。石丸義雄多良見町長、蔭山嶋雄町議会副議長の祝辞の後、参列者を代表して松本淳慈恵病院理事長の発声により御鎮座四百六十年を奉祝して乾杯を行った。



神楽舞奉納

式年大祭に際し、以下の方より御献納いただきました。御礼申し上げます。△順不同・敬称略△

◇御神酒奉納

十八銀行多良見町支店、諫早信用金庫多良見支店、親和銀行多良見支店、山崎活魚店、上原国雄

◇初穂料奉納

中村 堯、久保政人、諫早信用金庫多良見支店長玉里幸一、多良見町長、阿蘇神社総代一同、喜々津農協組合長小山好磨、川嶋作蔵、溝上 満、阿蘇神社奉納相撲実行委員会、平野 守、多良見町議会議長、村瀬満明、相良信義、小山林栄、森 繁由、白石 勇、古澤妙心、かこい組(株)池田忠憲、後田セン、吉澤 稔、辻 ミツ、山口 ヨシエ

◇祝電挙受
諫早信用金庫理事長 吉元徹郎

以上

恒例

阿蘇神社奉納相撲大会終了

去る九月十五日、爽やかな秋空のもと、阿蘇神社奉納相撲実行委員会（会長松尾義光）主催により、恒例の「阿蘇神社奉納相撲大会」が行われた。本年は町内十一チームと町外より七チームの小学生、諫早農業高校と大分県中津工業高校よりの相撲部が参加して開催された。町内団体戦・個人戦・町対抗戦そして景品のかかった抜き相撲に熱戦が展開された。

◆団体戦

優勝 井樋ノ尾

準優勝 市布

三位 阿蘇A・阿蘇B

◆個人戦

優勝 徳永真義（中里）

準優勝 内野基（木床）

三位 吳林潤（喜々津団地）

◎四年生の部

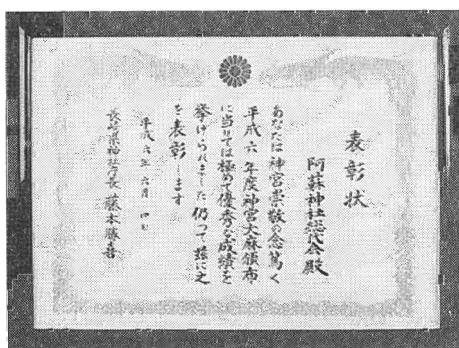
優勝 石丸善弘（木床）

準優勝 南雄一郎（中里）

三位 小山泰弘（市布）

同 山口健一（中里）

これは毎年行っている、神宮大麻頒布活動に対する感謝状で、長崎県神社庁長より本島総代会長へ贈呈されました。



◎六年生の部

優勝 吉賀大樹（井樋ノ尾）

準優勝 森康永（西川内）

三位 福田直樹（木床）

同 植野博史（阿蘇）

阿蘇神社総代会に

感謝状

去る八月二十四日、恒例の長崎県神社総代会中央研修会に於いて阿蘇神社総代会に感謝状が贈呈されました。

神社

Q & A

神社の祭

神社の祭は大祭、中祭、小祭、恒例式に区分規定されている。

大祭は例祭、祈念祭、新嘗祭、式年祭など神社に由緒の有る祭。

中祭は歳旦祭、紀元祭、天長祭など、小祭は大祭中祭に属さない祭。恒例式は大祓式、遙拝式などであり、祭典の大小により神職が身に付ける服装も

神饌、御神酒と区別

されている。現在で

は一般的に現物に代え

金錢を紙に包み、

幣帛料として供えら

れている。

十月十五日に斎行

された御鎮座四百六

十年式年大祭に際し

ては、神社本庁と長

崎県神社庁より幣帛

料が供えられた。神

社本庁よりの使者を献幣使と云

い、県神社庁の役職員が神社本

庁統理に代わり、隨員を従え祭

典に奉仕をする。

幣帛（又は幣帛料）は神様の

お側近くに納めるものであるか

ら、唐櫃に納め祭場まで鄭重に運ばれる。また神前供える場合も、神饌を供える三方と異なり雲脚台などに乗せて神前に供進される。



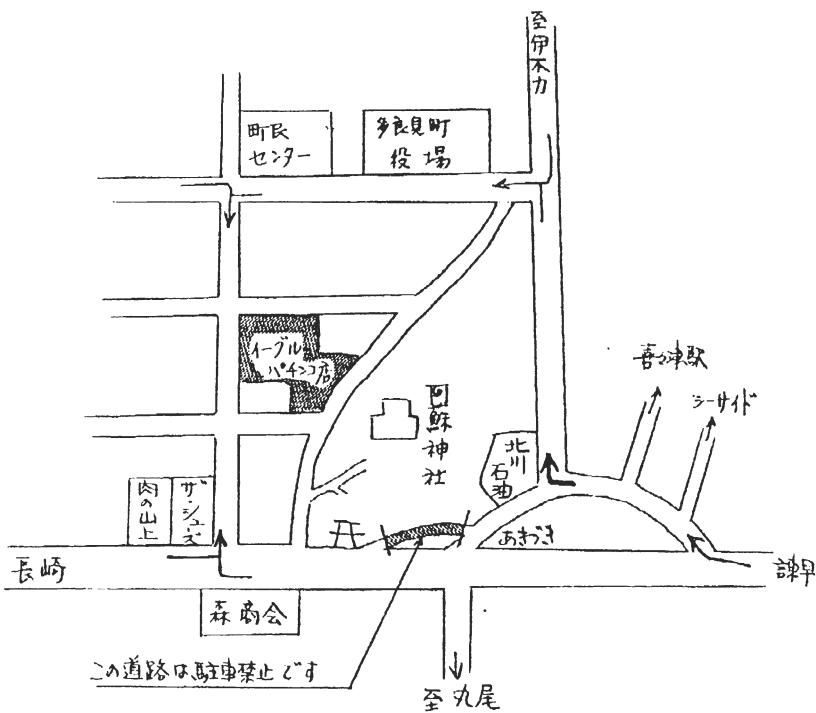
服装は、大祭時には正装、中祭は礼装、小祭は常装を着用することとなつており、神饌も大祭時には三方九台以上、中祭は七台以上、小祭は五台以上を神前に供えることとなつている。

阿蘇神社御鎮座四百六十年式年大祭は年毎との例祭の中でも、四百六十年と云う節目をお祝する式年祭（大祭）に当たり、正装を着用する。また当日参拝された方には献幣使の参向など例年と違った祭典を目にされたことと思う。

七五三詣では阿蘇神社へ！

平成六年七五三祝 数え年
 七才 昭和六十三年 生の女兒
 五才 平成 二 年 生の男児
 三才 平成 四 年 生の男女共

一般的に三才は男女、五才は男児、七才は女児がお参りをします。三才を「髪置」五才を「着袴」七才を「帯解」と云い、いずれも子供の無事成長を感謝し、今後の幸せを祈る祭りです。



◎神社では十一月十二日（土）と十三日（日）、及び十五日（火）は終日七五三祈願の受付をいたします。

◎これ以外の日のご参拝の方は、お手数ながら事前に神社まで連絡をお願いいたします。

◎十一月十二日（土）・十三日（日）は境内で記念撮影の受付もいたします。お車でお越しの方は、神社裏イーグルパチンコ店の駐車場を借用いたしております。（地図参照）

◆奉納御礼 ◆
 ◎御白米奉納 佐藤賛店 佐藤素弘 殿
 ◎御白米奉納 外海町 平野克義 殿
 また、毎月境内の清掃奉仕を行っています老人会誠会、多良見ライオンズクラブ、遺族会の皆様方に衷心より厚く感謝申し上げます。

あとがき

「あそみや」第十三号をお届けします。▼昨年は冷夏で米が不作、今年は台風の禍も無く米は豊作のこと、喜ばしいことです▼しかし雨が降らず全国各地で水不足が続き、今でも不自由を強いられている家庭が多い▼政治・経済・国際関係と流れは激しく、吹く風も厳しいようです。▼朝夕の冷え込みも日毎に厳しくなってきました。ご自愛専一にお過しください。

◎大駐車場完備（阿蘇神社裏）
 イーグルパチンコ
 神社参拝の駐車場としてもご利用下さい